

3 絵の中の高知

●高知御家中等^{あら}鹿図(部分) 享和元年(1801)

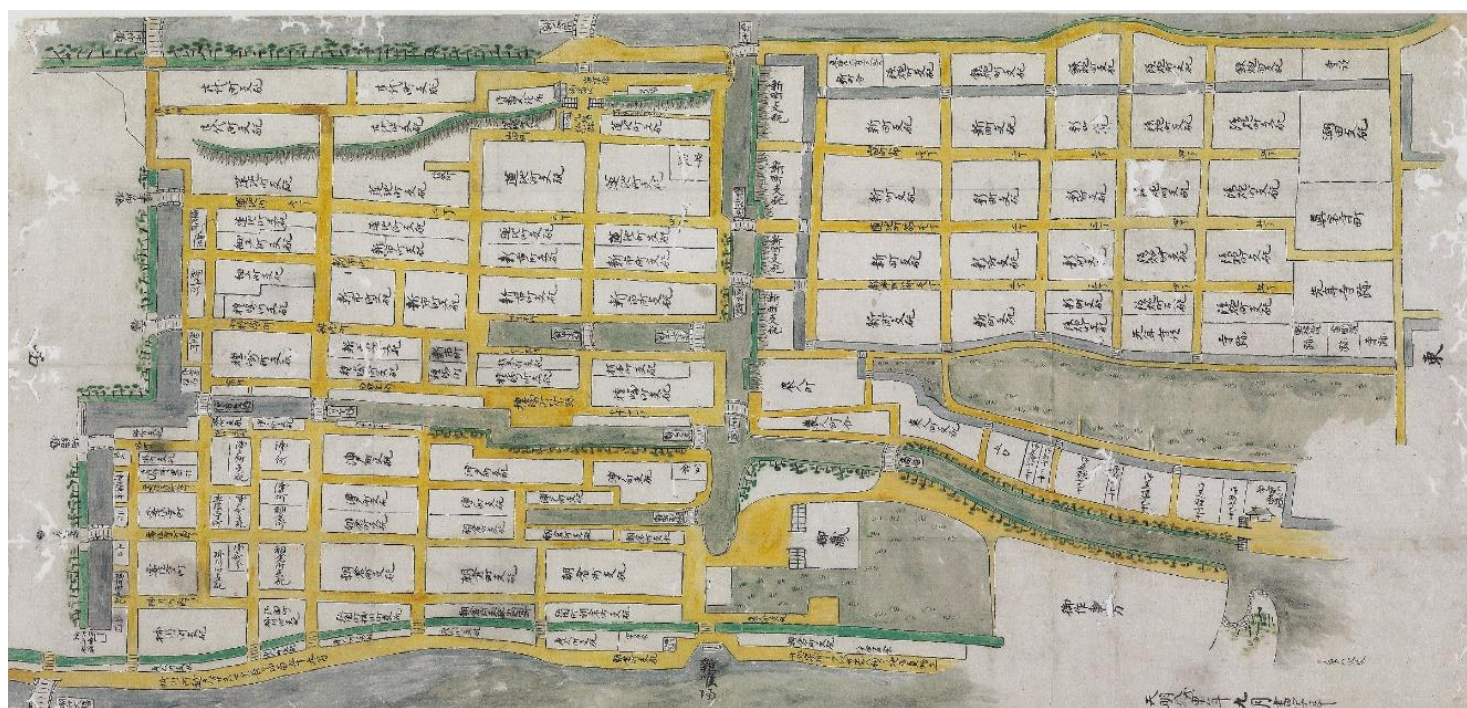


東は堀詰、西は升形まで、町人町と区切られた武家居住区の屋敷が描かれた図。

図中心の堀に囲まれた高知城は、内部情報は描かれず省略されている。

城の周りには藩の重臣が、居住区の北東・南西には与力屋敷が配置されており、重要な家臣ほど城の近くにおかれていることがわかる。

●高知街図 天明8年(1788)写



武士の居住空間である郭中の東、堀詰より東の範囲を表している。

下町は、浦戸湾に通じる堀割が縦横に通じ、臨港地区の役割を持っていた。堀沿いには、上方から誘致した商人町の堺町・京町、城下外の浦戸・種崎からの住民が多い町が配され、その東端には船着場や藩の米蔵、水主屋敷などの物流拠点も置かれた。

安芸市立歴史民俗資料館開館 40 周年記念特別展「

とびこめ! 絵図の世界

上:安喜土居内外細図
中:安芸浦図
下:宿茂絵図
(すべて部分)



「とびこめ!絵図の世界」開催によせて

絵図の中には、描いた人それぞれが感じた世界が広がっています。

見てほしいところをより大きく描いてみたり、ふつうより詳しく描きこんでみたり…今と同じ風景でも、絵図になるとちょっと違って見えてきます。

さあ、絵図の世界にとびこんで、いろんな世界を一緒にのぞいてみましょう!

Ⅰ 昔の安芸をみてみよう



●安芸村図屏風(部分) おか なんこう 岡 南岡筆 江戸末期～明治初期

安芸の沖から安芸平野を描いた屏風。山や川だけでなく、漁や荷運びなど、人々の生活の様子も描かれている。現在とは異なり、安芸川(左)と伊尾木川(右)の河口が一つになっている。



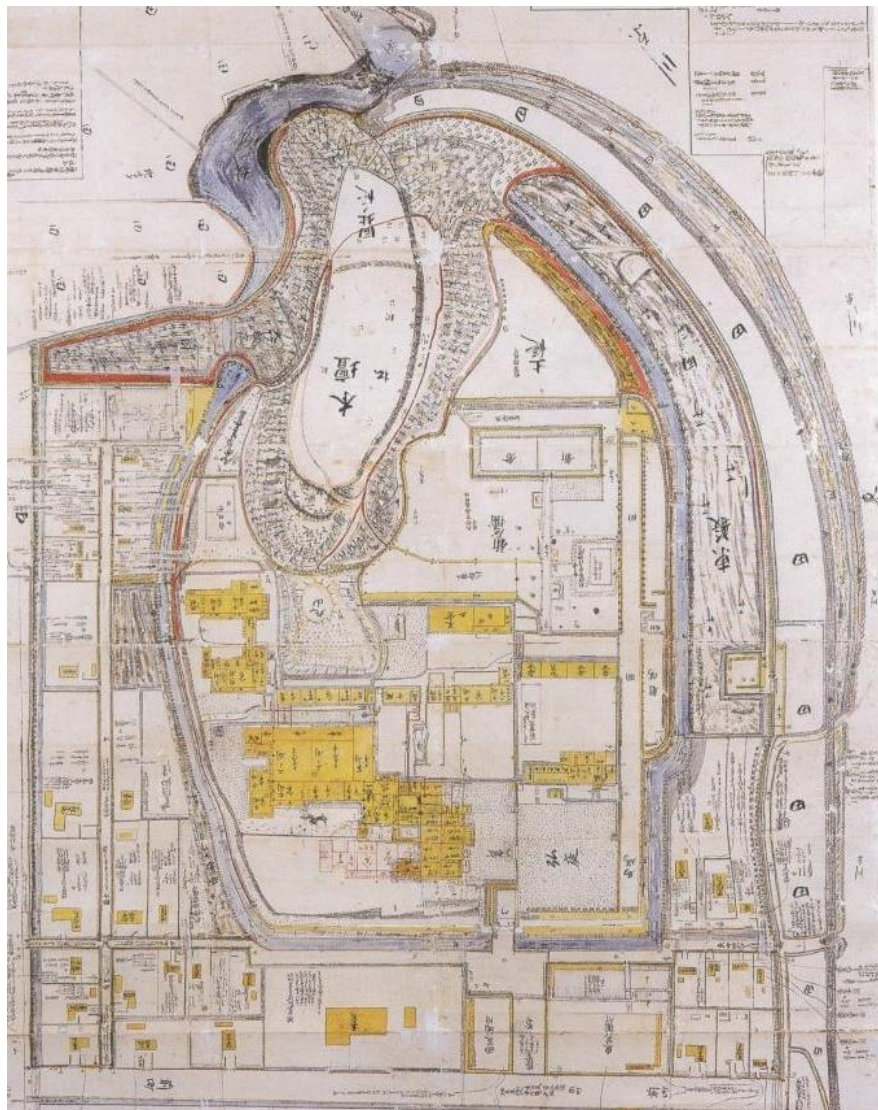
●内原野 あまのそうせき 天野瘦石筆 安芸市保護有形文化財指定

瘦石は出雲国松江の人で、大阪に出て南画を学んだ後、明治 20 年(1887)土佐に移り住んだ。この絵は安芸市内原野の弁天池や延寿亭を写したもので、明治期の内原野の風景を描いたものとして貴重である。

内原野は五藤氏が江戸時代に整備し、その際に多くのツツジが植えられた。現在ではツツジとともに、梅や桜などが春先から初夏にかけて咲いている。



2 土居ってどんなところ？



ここでの【土居】とは、藩の要所に配置された軍事拠点のこと。

土佐藩では、計 5 か所（佐川・宿毛・窪川・本山・安芸）に土居をおき、重要な家臣を配置した。

●安喜土居内外細図（部分）

五藤家文書 江戸時代後期

土居の内部（現：歴史民俗資料館敷地）と、その周辺（現：土居廓中地区）を描いた絵図。

道幅や区割り、屋敷の住人名などが詳しく書きこまれており、土地台帳的な役割も果たしていたと思われる。

屋敷地の植生は、木の種類まで詳しく書きこまれている。

●佐川土居図

寛文 12 年（1672）

土佐藩重臣・深尾氏の領地であった、佐川（現高岡郡佐川町）を描いた図。

図中央の土居屋敷は大きく誇張して描かれており、それを取り巻くように武家屋敷が山のふもとに配されている。

土居を中心に、町人と武士の住み分けがよくわかる絵図である。

